

フォーシーズンズホテル ミラノ Four Seasons Hotel Milano

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

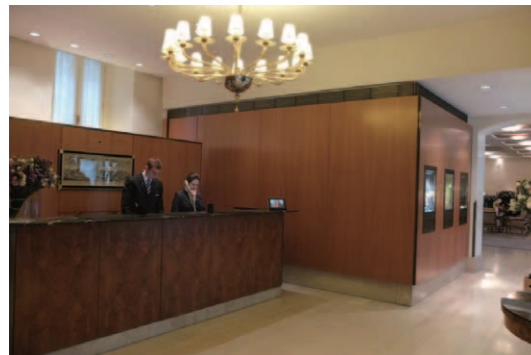
※本連載は毎月2・4週号掲載



高級ブティックが軒を並べるモンテ・ナポレオーネ通りから1本奥に入ったジェズ通りにある控えめなホテル正面玄関



建物内エントランスホールから見た正面玄関とコンシェルジュデスク。デスク背後の壁面にフレスコ画の一部が保存されている



スタイリッシュなデザインのレセプションカウンター



筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健株代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。
www.jhrca.com/worldhotel



建物は15世紀の尼僧院がルーツで、いかにもイタリアらしい車一台がやっと通れるくらいの狭いジェズ通りに「Four Seasons Hotel Milano」のエントランスがある



「La Veranda」前面のテラス席と回廊に囲まれた中庭



中庭を取り巻く修道院当時の面影を残す「クロイスター」[列柱廊]は絵のような美しさだ



正面に「La Veranda」、階段を下がるとイタリア料理イル・テアトロ「Il Teatro」がある



オールデイダイニングのラ・ベランダ「La Veranda」のエントランス



エントランスホールに広がるロビーラウンジ「Camino Room」



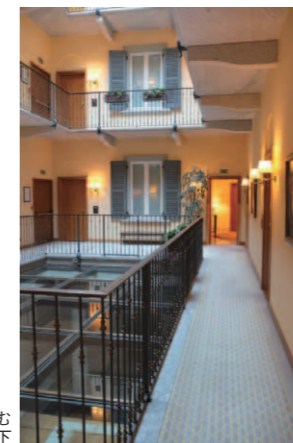
その奥にある落ち着いた雰囲気ラウンジ「Il Foyer」



レセプションの先にある別ウイングに位置する「Four Seasons Executive Suite」。このスイートルームは約70-84㎡の面積があり、広々としたワードローブ室と浴室を備えている



スイート奥にあり左右に窓を持つ落ち着いたベッドルーム



天窓からの光が差し込むパティオを中心とした別ウイング廊下

歴史ある市街地に取り残された中世の古い僧院や修道院を高級ホテルとして再利用させる、フォーシーズンズ流のホテル改修・再生術の先鞭をつけたホテルといえよう。ホテル建物は15世紀の尼僧院がルーツで、増改築を繰り返しながら18世紀には現在の規模の修道院になったという。イタリアファッションの中心地ミラノで、高級ブティックが軒を並べるモンテ・ナポレオーネ通りから1本奥に入ったジェズ通りにある、まさに最高のロケーションを誇る立地だ。これまでの歴史と格式を誇るいわゆるグランドホテルの一群を抑えて、ミラノでいちばんのファッション系人気ホテルとなり、後に続くデザイナーズ系のブルガリホテルやアルマーニホテルの先駆けとなったホテルといえる。

フォーシーズンズ・ミラノの開業は1993年で、25室のスイートルームを含めて全118室に抑え、それぞれ趣向の異なる内装と贅沢な造りの客室が魅力である。由緒ある修道院の面影を少しでも伝えるために、パブリックスペースの随所に古いフレスコ画を壁面に残してある。客室はクラシカルな雰囲気やミラノ流のコンテンポラリーなデザインが施され、どの客室も広々とした浴室とは別にワードローブ室を確保している。大部分の客室は広い中庭を囲むように配置されているが、筆者がアサインされた「Four Seasons Executive Suite」はレセプションの先にある別ウイングにあり、天窓からの光が差し込むパティオを中心に客室がまとまっている。

いかにもイタリアらしい、車一台がやっと通れるくらいの狭いジェズ通りにホテルエントランスがある。前もって言われなければ気が付かない程の控えめな正面玄関だ。ドアマンに導かれて館内に入るとすぐ右手にコンシェルジュデスクがあり、背後の壁面に当時のフレスコ画の一部が保存されている。左手にはロビーラウンジ「Camino Room」が広がり、その先に落ち着いた雰囲気のラウンジ「Il Foyer」がある。エントランス正面には木々の緑が美しいガーデンテラスに面したオールデイダイニング「La Veranda」が店を構え、シェフのセルジオ・メイが地中海料理とミラノ料理に腕を振るっている。脇にある階段を下がって小さなパティオに出ると、フォーシーズンズホテル椿山荘東京でも馴染みだったイタリア料理「Il Teatro」がある。残念ながらここは不規則な営業形態で、筆者の訪問時は休業中であり、同じくスパ「The Spa」がリニューアルオープンに向けて改修、休業中でもあった。中庭を取り巻く修道院当時の面影を残す「クロイスター」[列柱廊]は絵のような美しさだ。よく見るとクロイスターの列柱は内側部分で仕切りの全面ガラスに覆われていて、中庭と内回廊を自然な形で分離している。このあたりのデザイン感覚にあらためて感服する次第だ。

ホテルは多くのファッション・デザイナーや著名映画スターなどの常宿になっているという。時代のトレンドを反映した新しい感覚のフォーシーズンズ・スタイルは、今ミラノで最も活力のあるホテルといえよう。